

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
国際医療福祉専門学校七尾校	平成19年3月27日	宇野 弘之	〒926-0816 石川県七尾市藤橋町西部1番地 (電話) 0767-54-0177																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人 阿弥陀寺教育学園	昭和61年3月17日	宇野 弘之	〒290-0011 千葉県市原市能満字崩山1554-4 (電話) 043-208-1600																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	介護福祉学科	平成25年文部科学省告示第2号	—																							
学科の目的	「尊敬を支えるケアの実践」を教育課程の基本におき、生活支援の専門家に求められる技術と誇りを身に付けます。理学療法士、作業療法士、救急救命士の3つの医療職の育成も行う本校の特色を生かし、他学科の学生と共に学ぶことでハビリテーションチームの一員としての介護・福祉を学び、能登地区をはじめ、地域社会に貢献できる介護福祉士を育てます。																										
認定年月日	平成27年2月17日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1875時間(93単位)	1095時間(72単位)	330時間(11単位)	450時間(10単位)	-	-																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
60人	13人	1人	3人	13人	16人																						
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日		成績評価		■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が授業時数の3分の2(実習においては5分の4)に達しない者は、その科目については評価を受けることができない。																						
長期休み	■学年始：4月1日 ■夏季：8月7日～8月25日 ■冬季：12月25日～1月3日 ■学年末：3月5日～3月28日		卒業・進級条件		全科目単位認定(93単位、1875時間)を受け、かつ校長が卒業を認めたもの。																						
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 定期的な面談を実施し、長期欠席時においても学生の状況等の把握に努め、学生の課題の解決への支援を行っていく。		課外活動		■課外活動の種類 介護・福祉施設・機関におけるボランティア活動・地域貢献活動 ■サークル活動：有																						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 介護・福祉事業所(施設・機関等) ■就職指導内容 就職試験対策として①就職活動の流れと情報収集の仕方、②履歴書の書き方、③面接対策、④小論文対策などを講義形式で指導 ■卒業者数 5人 ■就職希望者数 5人 ■就職者数 5人 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合 100% ■その他 ・進学者数：0人 ・他分野への就職：0人 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護福祉士国家試験受験資格</td> <td>①</td> <td>5人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するもの記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 初級障害者スポーツ指導員資格			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	介護福祉士国家試験受験資格	①	5人	5人												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
介護福祉士国家試験受験資格	①	5人	5人																								
中途退学の現状	■中途退学者 3名 平成28年4月1日在学者13名(平成28年4月入学者を含む) 平成29年3月31日在学者10名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の原因 成績不振、就職希望 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・入学後早期の合同合宿などの行事による学生間交流の促進を図る ・定期的な学生個人面談の実施による密な学生把握 ・学生主導による学習グループで、定期試験・国家試験対策の勉強を行う。		■中退率 13%																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 入学試験の一般入学試験において総合問題試験の得点率が80%以上の学生に対し、入学金全額と初年度前期授業料の半額免除 入学試験の一般入学試験において総合問題試験の得点率が90%以上の学生に対し、入学金全額と初年度前期授業料の全額免除 ■専門実践教育訓練給付：給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	http://kifs-nanao.ac.jp/department/care_welfare/																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください。

2. 就職等の状況(※2)
「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。
※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、資金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱わ)。
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

超高齢社会を迎えたわが国にとって、福祉・介護分野を担う人材養成は極めて重要な課題である。そこで本校は、介護実習をとおして福祉施設と連携を図り、実学としての介護福祉を教育課程編成に反映させている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
本校介護福祉学科の教育課程編成委員会は、教務委員会の専門委員会としての位置づけとして設置されている。本委員会は、本校学則第1条に定められた教育理念に基づき、介護福祉関連の介護福祉施設及び専門職団体等の協力を得て、本校の教育課程について協議し、改善等を行うものである。

- 主な審議事項としては以下のとおりである。
- ・本校の教育課程の編成に関する事項
- ・授業科目の開設・内容及び教育方法等に関する事項
- ・実習・演習等に関する事項
- ・その他教育課程編成に関する事項

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年11月30日現在

名前	所属	任期	種別
鵜野 誠	一般社団法人石川県介護福祉士会理事	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	①
岩本 潤一	介護老人保健施設 千寿苑 事務長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年に2回実施していくこととする。

(開催日時)

第1回 平成29年5月26日 16:10～17:10 実施

第2回 平成30年2月 開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

委員の意見	方法の改善・修正
実習生は社会に出た経験がないためか、利用者やスタッフと話をしても、なかなか会話が続かない面が見られる。特に、いわゆるゆとり教育の中で育ったせいや学生に対して、どのように接しているかわからないところがある。できればコミュニケーション能力をさらに鍛えることができるようなカリキュラムがあると良い。	アルバイトやボランティア等にて、社会性を培っていくこと、授業(ボランティア論)でボランティアに参加することが義務づけられるが、その他でもボランティアの機会を増やしていくといった対応策を実施。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

福祉施設で実習指導者や職員の助言・指導を受けながら学生一人ひとりが専門知識・技術、専門職の行動規範や職業倫理を体験的に学び、支援を必要とする人たちの立場にたつて考え、行動する力を修得する。また、演習科目では、講義で学んだ形式知と実習で学ぶ経験知を結びつける教育をおこなう。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実習指導者会議を年に1回開催し、連携施設と学校の意向を共有した状態で高度な教育を実施できるように、事前に打ち合わせを密におこなっている。また、実習期間中に週に1回以上、専任教員が実習施設を訪問し実習内容、状況を確認しており、その他、実習の遂行上、問題が発生した場合や、指導方法など実習指導者との打ち合わせが必要な場合にも訪問し対応する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
基礎実習Ⅰ	介護福祉士の役割を見学・体験を通して包括的に学習する。	デイサービスセンターせんじゅ、デイサービスセンターエレガントなぎの浦、デイサービスセンターあつとほーむイースト、他
基礎実習Ⅱ	講義・演習・学内実習で学んだ知識に基づいて、利用者との人間的関わりを深め、利用者のニーズに関する理解力、判断力を養う。	秀楽苑グループホーム、グループほーむ 楓の家、グループホーム やくしの里、グループホーム 鹿寿苑、グループホームあじさい、他
総合実習Ⅰ	リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。	特別養護老人ホーム「エレガントなぎの浦」、特別養護老人ホーム「鹿寿苑」、特別養護老人ホーム「こすもす」、他
総合実習Ⅱ	個々の生活リズムや個性を理解し、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程の展開について学習する。	特別養護老人ホーム「エレガントなぎの浦」、特別養護老人ホーム「鹿寿苑」、特別養護老人ホーム「こすもす」、他

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にしていること。」関係	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 本校の職員研修規程は、国際医療福祉専門学校七尾校就業規則第86条の規定に基づき、職員に現在就いている職又は将来就くことが予想される職の職務と責任の遂行に必要な知識、技能等を修得させ、その他その遂行に必要な職員の能力、資質等を向上させることを目的とする。また、研修の効果を高めるために計画的な研修実施及び研修報告をおこない、職員全体の自己啓発の意欲の向上を図る。	
(2)研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等 平成28年度 介護教員研修会 ②指導力の修得・向上のための研修等 平成29年度 東海北陸介護福祉士教育学会 認知症カフェ・認知症サポーター	
(3)研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 ②指導力の修得・向上のための研修等 平成30年度 東海北陸介護福祉士教育学会 認知症カフェ・認知症サポーター	
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1)学校関係者評価の基本方針 ・専修学校における学校評価ガイドライン及び本校学則第4条第2項に基づき、教育、組織及び運営並びに施設及び設備等の状況を明確化する。 ・本校自己点検評価の結果を基本として、学校関係者評価委員会の中で学校評価を実施する。 ・本校の現状について、学外へ適切に公表する。	
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)教育成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	(11)なし
※(10)及び(11)については任意記載。	
(3)学校関係者評価結果の活用状況	
評価項目	評価結果に対する活用状況
(1)教育理念・目標	介護福祉士として障害者と共に歩もうとする意欲と感性に溢れた人材を育成していく。
(2)学校運営	高校との連携を密に行い、学生数の確保を図る。 校内でデイサービスを展開している事業所が他にないため、新たなデイサービスのあり方として積極的に広報活動を行う。
(3)教育活動	即戦力となるように、さまざまな事業所種別での実習を行っている。
(4)学修成果	介護福祉士養成協会実施している卒業時共通試験では、毎年国家試験合格基準点をクリアしている。
(5)学生支援	定期的な個人面談を実施しフォローアップする。 スクールバスの充実化を図る。
(6)教育環境	教育備品の整備として、実習用の人形等の資器材整備を図っていく。 グループ学習等で学生が遅くなる時は、教員等が対応して学校開放時間の時間延長を図る。
(7)学生の受入れ募集	立地案件による不利がある中での学生募集のPRについて意見が出され、更なる学生募集活動、新聞等での学生教育活動の紹介を図っていく。 能登地区・高岡地区の高校ガイダンスを充実させる。
(8)財務	意見なし
(9)法令等の遵守	意見なし
(10)社会貢献・地域貢献	七尾市民健康福祉祭りへ参加 介護保険施設におけるボランティア活動

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成〇年〇月〇日現在

名前	所属	任期	種別
中川 忠司	七尾市役所 健康福祉部福祉課 課長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	企業等委員
奥井 敦士	社会福祉法人七尾市社会福祉協議会・会長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	企業等委員
宮本 勝	後援会会長 作学保護者	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	PTA
大矢 陽介	はまなす園 特別養護老人ホーム 理学卒業生	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	卒業生
納藤 諒祐	エルダーヴィラ氷見 理学卒業生	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	卒業生
沖崎 孝裕	市立輪島病院 作学卒業生	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	卒業生
川内 大雅	新川地域消防本部 救命卒業生	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	卒業生
法業 未来	公立つぎ病院 介護卒業生	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
URL: <http://kifs-nanao.ac.jp/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

原則、ホームページを媒体として不特定多数へ対しての情報公開をおこなう。実習において実習指導者会議を開催し、実習施設等との情報共有を積極的に実施していく。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念・ポリシー
(2) 各学科等の教育	理学療法学科(学びのポイント、カリキュラム)
(3) 教職員	教員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	教育プログラム
(5) 様々な教育活動・教育環境	授業・学習、キャンパスガイド
(6) 学生の生活支援	学校生活、登校、暮らし
(7) 学生納付金・修学支援	就職支援、お金(学費・諸経費、奨学金)
(8) 学校の財務	学校法人阿弥陀寺教育学園の財務諸表
(9) 学校評価	学校関係者評価、自己点検・評価書、学生による授業評価
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://kifs-nanao.ac.jp/>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			介護倫理	人間の尊厳と自立、介護にける尊厳の保持・自立支援について学習する。	1前	30	2	○			○			○	
○			人間関係論	介護人としての倫理を理解し、より良い人間関係を築くための知識を学習する。	1前	15	1	○			○				○
○			コミュニケーション技術概論	人間関係の形成、コミュニケーションの基礎作りを学習する。	1前	15	1	○			○		○		
○			保健医療福祉概論	わが国の社会保障制度や社会福祉制度において次ぎの項目を中心に学習する。	1前	30	2	○			○		○		
○			生活と福祉	①生活と福祉、②社会保障制度、③介護保険制度、④障害者自立支援制度、⑤介護実践に関連する諸制度について学習する。	2前	15	1	○			○				○
○			社会保障制度論	生活の構造、家族、地域社会と個人、人と社会、組織、ライフスタイルの変化、生活支援と福祉の体系について学習する。	2後	15	1	○			○				○
	○		運動科学	人間にとって運動の必要性とからだへの働きかけての能力について学習する。	1前	30	2	○			○				○
	○		ボランティア論	ボランティア活動に参加する場合とそれを受け入れる場合の双方の立場から、必要な教育や組織運営のあり方などを学習する。	1前	15	1	○			○				○
	○		リハビリテーション概論	介護におけるチームケアなどにおいて次の項目を中心に学習する。	2前	15	1	○			○				○
	○		情報科学	①自立にむけた介護②介護のはたらきと基本的視点③リハビリテーションと介護	1前	30	2	○			○		○		

○		福祉住環境論	基本的なパソコンの設定方法、アプリケーションの使い方、インターネットの使い方を学習する	1後	30	2	○			○	○							
○		介護の基本Ⅰ	介護福祉士を取り巻く状況、介護福祉士の役割と機能を支える仕組み、尊厳を支える介護、自立に向けた介護における知識と技術について学習する。	1前	60	4	○			○	○							
○		介護の基本Ⅱ	介護を必要とする人の理解、介護の必要性、生活支援、専門性、介護サービスにおける連携を学習する。	1後	60	4	○			○	○							
○		介護の基本Ⅲ	介護サービスとは何かを考え、介護における安全の確保とリスクマネジメント、連携例の理解、感染症対策の実際、こころとからだの健康管理について学習する。	2後	60	4	○			○	○							
○		コミュニケーション技術論Ⅰ	人間関係の形成、コミュニケーションの基礎について学習する。	1前	30	1			○	○								○
○		コミュニケーション技術論Ⅱ	コミュニケーションの実際、技術等について学習する。	1後	30	1			○	○								○
○		生活支援技術論Ⅰ	生活支援、自立に向けた居住環境の整備について学習する。	1前	30	2	○			○	○							
○		生活支援技術論Ⅰ演習	生活支援、福祉用具、自立に向けた居住環境の整備について実例を通して学習する。	1前	30	1			○	○	○							
○		生活支援技術論Ⅱ	自立に向けた身じたく、移動の介助について学習する。	1前	30	2	○			○	○							
○		生活支援技術論Ⅱ演習	自立に向けた身じたく、移動の介助について実例を通して学習する。	1前	30	1			○	○	○							
○		生活支援技術論Ⅲ	自立に向けた食事、家事介護の技術を学習する。	1後	30	2	○			○	○							
○		生活支援技術論Ⅲ演習	自立に向けた食事、家事介護における実際について演習を通して学習する。	1後	30	1			○	○	○							

○		生活支援技術論 IV	自立に向けた排泄、入浴・清潔保持介護について学習する。	1 後	30	2	○			○								
○		生活支援技術論 IV演習	自立に向けた排泄、入浴・清潔保持介護について事例と実際を通して学習する。	1 後	30	1		○		○								
○		生活支援技術論 V	自立に向けた睡眠の介護、終末期の介護についてその意義と目的、介護の実際について学習する。	2 前	30	2	○			○								
○		生活支援技術論 V演習	自立に向けた睡眠の介護、終末期の介護について体験や演習を通して学習する。	2 前	30	1		○		○								
○		介護過程論 I	介護過程の意義・目的、展開のプロセス及び実践的展開とさらにアセスメントの方法と実際について学習する。	1 前	30	2	○			○								
○		介護過程論 II	介護計画の立案、実施、評価、個別援助計画について学習する。	1 後	30	2	○			○								
○		介護過程論 III	介護過程の実践的展開、アセスメントの実際、介護過程展開の実際について、学生自身で考えた事例を通して学習する。	1 後	30	2	○			○								
○		介護過程論 IV	介護過程とケアマネジメントの関係性、チームアプローチにおける介護福祉士の役割について学習する。	2 前	30	2	○			○								
○		介護過程論 V	総合実習 II での介護過程展開を体験し、そこでの自らの学びをまとめ、他者に伝える。	2 後	30	2	○			○								
○		介護総合演習 I	介護実習において明確化するための課題や、校内学習との統合を図りながら介護福祉士に必要な知識・技術の向上を目指した授業を展開する。	1 通	60	2		○		○								
○		介護総合演習 II	介護実習において明確化した課題の改善に向け、校内学習との統合を図りながら介護福祉士に必要な知識・技術の向上を目指した授業を展開する。	2 通	60	2		○		○								
○		基礎実習 I	介護福祉士の役割を見学・体験を通して包括的に学習する。	1 前	45	1				○		○				○	○	

○		基礎実習Ⅱ	講義・演習・学内実周で学んだ知識に基づいて、利用者との人間的関わりを深め、利用者のニーズに関する理解力、判断力を養う。	1 後	90	2				○	○	○	○
○		総合実習Ⅰ	リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。	2 前	90	2				○	○	○	○
○		総合実習Ⅱ	個々の生活リズムや個性を理解し、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程の展開について学習する。	2 後	225	5				○	○	○	○
○		発達と老化の理解Ⅰ	①高齢者福祉制度②老年期の生理的・身体的・心理・精神的特徴③老年期に多い疾患とリスク④老年期の障害について学習する。	2 前	30	2	○			○	○		
○		発達と老化の理解Ⅱ	心身の成長と発達のパターン、生理的発達、心理的発達を学ぶ。さらに人間の発達段階や老化に伴う成熟、精神的、心理的過程について学習する。	2 前	30	2	○			○	○		
○		認知症の理解Ⅰ	認知症に関する基礎的知識を習得し、その特性を理解し認知症における介護について学習する。	1 後	30	2	○			○	○		
○		認知症の理解Ⅱ	認知症のある人の体験や意思疎通が困難な特性を理解し、事例を通して周囲の環境にも配慮したチームアプローチの視点を学習する。	2 前	30	2	○			○	○		
○		障害の理解Ⅰ	障害の基礎的知識、医学的側面の基礎知識を理解し、本人のみならず家族を含めた連携と支援の仕方について学習する。	1 後	30	2	○			○	○		
○		障害の理解Ⅱ	障害の基礎的知識、医学的側面の基礎知識について学習する。	2 前	30	2	○			○		○	
○		こころとからだのしくみⅠ	脳や心臓などの基本的解剖や生理、骨・関節・筋肉などからだの動きのメカニズムを理解する。	1 前	30	2	○			○	○		

○		こころとからだのしくみⅡ	1. 人の基本的欲求、社会欲求の理解、その他の欲求との比較から自己実現欲求の本質的違いを学ぶ。また脳とこころ、脳の機能について理解する。	1 後	45	3	○			○									
○		こころとからだのしくみⅢ	2. 摂食と嚥下にかかわる解剖と仕組み、代償栄養摂食法について学ぶ。また排泄・排尿の行為と仕組みについて、汚れがもたらす影響と清潔保持の必要性、睡眠のしくみとそれに関連したこころとからだのしくみについて学ぶ。	2 後	30	2	○			○									
○		心理学入門	身じたくに関するこころとからだのしくみ、移動の必要性効果、移動するためのこころとからだのしくみについて学ぶ。	1 前	15	1	○			○									○
○		医療的ケア論Ⅰ	終末期から「死」までの身体機能の変化と対応について理解する。	2 前	45	3	○			○									○
○		医療的ケア論Ⅱ	人間理解の基礎について学習する。心的過程について学習する。	2 後	30	1	○			○									○
合計					49科目				1875単位時間(93単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。